

[GOOGLE MULTI-LANGUAGE TRANSLATOR](#) (翻訳アプリ)

NPTの早期批准と「グローバル平和」教育を！

ランメル 幸（85）被爆者 カナダ バンクーバー在住

今年の原爆77周年記念は、核兵器の使用をチラつかせながら行っているロシアによるウクライナ侵攻が長期化していることもあり、被爆者をはじめ世界中の多くの人が切に平和を求め、非人道的な核兵器の廃止を求めている年ではないだろうか。

私は8歳の時広島で原爆に会い、父と従妹の母（叔母）他数名の親せきを失った。大好きな従妹は3歳で母を原爆で、父を戦争でとられ孤児となった。多くの人が悲惨な環境の中で、ある人は命を落とし、又生き残った被爆者の一人一人は心に傷を秘めて生きている。私は縁あってカナダ人と結婚して娘二人が与えられバンクーバーにすんでいる。現在は平和授業の一環として “核兵器廃絶、核の恐怖、平和への道を考える”をテーマにヒロシマ被爆証言を、夫の協力を得て行っている。

被爆証言を語る人が少なくなり21世紀は2世3世の時代、またIT 時代でもある。負の遺産、核兵器とヒューマニズムはあいられないことを若者が認識し世界平和を目指して核撲滅を実現することを心にとめてほしい。私の活動は小さな一粒の種のようなものである。小さくてもやがて芽をだし、平和な社会という大きな花を咲かせるだろうという希望をもっている。私は“種をまく人”としてこれからも、健康が許す限りつづけていきたい。

語り部をして学んだことは、多くの若者は将来に向かって良き社会を作ろうとの希望をもっていること。ある学生はバンクーバーモデル「国連会議」を年1回主宰している。約1000人ぐらいの高校生が集まって、世界が当面する問題とその解決策を議論している。素晴らしいアイデアが提示されるそうだ。これらは平和社会への希望を持たせてくれる。戦争に直接かかわったことのないカナダ人は、被爆者が目の前にいること自体、おおきなインパクトであり、話を聞いて涙を流しながらあなたが健康で良かったとよるこんでくれる。また小学5年の男の子から「原爆の作り方を知っているか」「原爆が落ちた瞬間の様子がしりたい」など原爆についての質問が相次いだ。更に平和とは「けんかをしないで仲良くすること」「相手の意見を尊重すること」と述べ、その方法として「ITで多くの人に平和な世界の呼びかけをし、国と国との友情と理解を深める」などという現代っ子らしい意見もあった。私はこれらの言葉を聞くと、時代時代に適した若者の夢が実現することを祈願してやまない。

来年G7 サミットが広島で開催されるニュースは大きな意義があり、忘れかかっている核問題を全人類が再確認できるよき機会であろう。これからの世界を担っていく若者に核廃絶、戦争のない、不安と心配のない生活が送られる平凡でも平和な日々を築いてほしい。各国のリーダーが若者に照準を当てた「グローバル平和」教育を自国で推進して欲しい。現今の憂いは私の二つの祖国、日本とカナダが、核不拡散条約（NPT）にサインしていない事だ。特に原爆を受けた日本は先頭に立って一番にサインすべきではないだろうか。

